

市長施政方針

2月22日に開会した平成24年第1回美祢市議会定例会の冒頭に村田弘司市長が平成24年度施政方針を発表しましたので、その全文を紹介します。



美祢市長
村田 弘司

昨年3月11日に発生いたしました東日本大震災は、わが国に甚大な被害をもたらし、多数の尊い生命・財産を奪い去りました。

このような我々がかつて経験したことのない未曾有の大震災から、徐々に復興が進んできてはおりますが、原子力災害の復旧等まだまだ道半ばであり、なお多くの国民に苦しみをもちらわし続けています。

わが国の経済においては、世界金融危機の打撃からようやく立ち直りかけた矢先に、この大災害の発生による大打撃を受け、さらには、タイの大洪水の発生

も加わり、産業界は国内外のサプライチェーン（供給網）の再構築に迫られております。

また、欧州債務危機の深刻化による世界経済全体の減速傾向が続く中で、歴史的円高による輸出の低迷、海外への設備投資の加速に伴う空洞化、また、新興国の追い上げなどの危機に直面しています。

一方、政治情勢に目を向けますと、大震災からの復興のさなか誕生した野田政権は、大震災からの復興はもちろんのこと、消費税増税を伴う社会保障と税の一体改革による財政再建、原子力災害の復旧、原子力発電停止に伴う再生可能エネルギーを活用した電力供給体制の整備、TPP参加交渉等多くの難問を抱えています。

これらの社会情勢は、否応なしに地方自治、地方経済にも先行き不透明な閉そく感をもたらしております。

しかしながら、このような時こそ、地方から元気を発信するこ

とが重要と考えております。

すなわち第1次美祢市総合計画の五つの基本目標「安全・安心の確保」「観光交流の促進」「産業の振興」「ひとの育成」「行財政運営の強化」を引き続き強力に推し進め、基本理念である「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祢市」の実現に向かって、さらに力強く突き進んで参る所存であります。

それでは、平成24年度の主要施策について、総合計画の5つの基本目標に従い、「説明申し上げ

一・安全・安心の確保

医療・福祉の充実、都市基盤の整備

はじめに、1つ目の基本目標である「安全・安心の確保」についてであります。

まず、医療・福祉の充実を推進するため、平成23年度、美祢市の地域医療を支え育てる条例を制定し、基本計画を策定いたしました。地域医療充実の必要性について広く市民の皆様にご理解いただけるよう、地区別研修会を開催いたします。

また、障害者福祉行政の基本となる障害者計画を策定することとしております。

次に、上下水道の整備を推進するため、水道未給水地区である於福町下地区への上水道拡張を引続き推進するとともに、美

東・秋芳地域水道軟水化に向けての調整、検討を行います。

次に、公共交通の充実を図るため、ミニバスの運行を新たに豊田前町・西厚保町地区に広げるなど地域の足の確保に努めて参ります。

路線バスについては、美東・秋芳地域から市内高校への通学利便性の向上を図るため、アンモナイト号を朝1便・夕方2便増便するとともに、交通不便地域である於福町田代地区の交通便利性確保のため、既設路線の見直しを行います。



美祢線運転再開

また、平成22年7月の豪雨災害により、不通となっていたJR美祢線は、昨年9月26日に復旧



を果たし、市民の皆様の貴重な交通機関として運転を再開したところであります。今後は、本市と長門市及び山陽小野田市の関係団体で組織するJR美祢線利用促進協議会を中心として引き続き利用促進を図って参りますが、主な取り組みとして、列車に沿線の観光地等をアピールするためにラッピングを施し、さらなる利用促進に努めて参ります。

また、「駅舎地域交流ステーション事業」により、美祢線の厚保駅と於福駅を改修し、美祢線の利用促進と併せて地域交流ステーションとして資力有る地域創造を目指す交流施設として活用いたします。

次に、住環境の整備と定住促進を図るため、本市最大の市営住宅団地である下領北団地の建替、空き家情報バンク活用応援事業、U・J・ターンの促進事業、ハッピーエディング支援事業等の定住促進事業に引き続き取り組むことにより住みよいまちづくりを進めて参ります。

次に循環型社会の推進を図るため、新たに太陽光発電システムの導入に対する支援、また、生ゴミ堆肥化の本格的取組へ向け、希望される方に段ボールコンポスト資材の配布を行うとともに、化学肥料や農薬の使用を控えた農業に取り組む農家を支援する環境保全型農業直接支援対策事業を実施いたします。

次に、消防・防災の推進を図

るため、新たに地域の自主防災活動に対する支援を行います。

また、消防本部から美東地域・秋芳地域へ直接、告知放送ができるよう機械設備の整備を行うとともに、高規格救急車の更新や計画的な小型動力ポンプ積載車更新及び耐震性貯水槽の設置を行います。

さらには、下関市消防本部と平成25年10月から共同運用を目指す共同指令センターの整備を進めるとともに、平成28年度からの共同運用を目指して、消防救急無線のデジタル化整備に着手します。

また、美祢地域の土砂災害ハザードマップの作成、西厚保地区の洪水ハザードマップの作成により地域防災力の強化を図り、災害に強いまちづくりを進めて参ります。

二. 観光交流の促進

観光・交流の活性化、
広域連携の強化

続きまして、2点目の基本目標である「観光交流の促進」についてであります。

まず、世界ジオパーク登録へ向けての取組みですが、本年度中に美祢市ジオパーク推進協議会を立ち上げて、日本ジオパーク登録に向けて取組みを加速化させて参ります。

また、ジオパーク登録に向けた重要なジオスポットとして位置

付ける天然記念物大岩郷周辺を棚田の復元等の整備により観光資源としての価値を高めるとともに、長登銅山跡土地購入、また、長登銅山文化交流館を大仏ミュージアムの愛称と併せて、看板製作、鑄造体験学習チラシなどの活用により広く周知を図ることにより、さらなる利用の促進を図ってまいります。

日本ジオパーク、さらには世界ジオパークに登録されるためには、協議会が中心になって市民が一体となった取組みが必要不可欠となります。このことは、ひとつくり・地域づくりに繋がり、ひいては市民の一体感の醸成に大きな効果を及ぼすものと考えてお



ジオパークシンポジウム

ります。

また、引き続き、サインシステム整備事業により本市を訪れて

くださるすべての方々の円滑な市内回遊と的確な誘導を図るためサインの整備を進めて参ります。

次に地域間交流・国際交流を推進するため、マスメディアを活用して情報発信を行う、みねアークセアアップ事業やアンテナシヨップ、ふるさと交流大使を引き続き活用するとともに、NHKのラジオ公開番組「真打競演」の開催により、美祢市の情報発信を積極的に行ってまいります。

また、本年度、台湾との観光交流及び農産物などの物流の拡大を目指して、台湾を訪問いたしました。24年度は台湾台北市にある、台北世界貿易センター内に美祢市の観光PRや、特産品即売を行う交流の拠点を開設し、積極的な本市への誘客を含めた活動を活発に行いたいと考えております。

これら、国内はもとより、台湾の他にも中国・韓国など東アジアを中心に交流を深め、交流拠点都市たる美祢市振興に結びつけていきたいと考えております。

さらには、オーストラリア発祥の野外スポーツである、ロゲイニングを活用した美祢市魅力再発見事業に新たに取組むことにより、市民の皆様に美祢市の魅力を再発見していただくとともに、将来、ジオパーク上のジオサイトとなり得る美祢市の埋もれた様々な資源の掘り起こしを行いたいと考えております。

このロゲイニングのチェックポ